

6月4日 例会「Viva! 公務員」

4月27日の総会の結果報告

例会のお知らせ

■名称/第102回例会『Viva! 公務員』

■日時/6月4日(火)

①PM 2:00—、②PM 4:20—、③PM6:40—

■場所/加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル/Viva! 公務員

■監督/ジェンナーロ・ヌンツィアンテ

■出演/ケッコ・ザローネ、ソニア・ベルガマスコ

■データ/2015年(公開2017年)、イタリア、86分

■ジャンル/コメディ

■作品/終身雇用を求めて公務員になった男がリストラの対象になってしまったことから巻き起こる騒動を描き、イタリアで大ヒットを記録したコメディドラマ。終身雇用の仕事に就いて安定した人生を送るといふ子どもの頃からの夢をかなえ、15年前に公務員になった独身男性ケッコ。しかし政府の方針で公務員が削減される

ることになり、ケッコもその対象になってしまう。それでも公務員の職にしがみつこうとするケッコをどうにか退職に追い込みたいリストラ担当者は、ケッコに僻地への異動を命じ続け、ついには北極圏へと左遷する。主演はイタリアで人気の喜劇俳優ケッコ・ザローネ。



2019年度定例総会議案の要旨

4月27日(土)の午後2時から東加古川の喫茶明日香本店で、2019年度の加古川シネマクラブ定例総会を行

いました。出席6人、委任状8名、計14名で議案の関係者の都合による訂正や単純な誤記等の修正はありましたが、ほぼ原案どおり議決されました。承認された議案は、例会会場で配付などして手渡す予定です。

まず、2018年度の活動報告と決算報告についてです。限られた会費の中で6回の例会を中心とした通常どおり活動を行うことができました。

収支については、会員外の一般の方からも観覧料をいただく特別例会を2回行い、関係者のご尽力のおかげで当初計画と比べ6万円以上の収入増の結果となり、会員数の伸び悩みに伴う会費収入を補うのに充てることができました。一時期の赤字の状態からは抜け出ています。また、2018年度もその前年度同様に関係者の皆様には物品と労力の提供を受けたほか、兵庫県映画センター様からは映画事業の協力に対する礼金をいただくなど、支出減と収入増によく努めた結果でした。

最も大きな課題である会員数については、この会の活動が3月に朝日新聞で紹介されたこともあり、年度末に10名の入会があったことなど、年間16名の増で現在148名となっています。当面の目標である200名にはまだまだですが、会の存続の危機の状況からは改善されています。

役員の選任については、代表委員と事務委員の各2名、監査委員は前年度と変わらず、運営委員が逝去された岡本健一郎さんが抜けて、新たに有馬幸子さん、田原葉子さんの2名が2018年度途中から着任いただいております。計5名があらためて選任されました。

次に、2019年度の活動計画と予算についてです。会費収入が限られています、またスタッフのマンパワーもあまり余裕がありませんので、年6回の例会の開催を継続することに集中します。黒字が見込める適当な作品があれば、一般の方からも観覧料をいただく特別例会を実施する計画ですが、具体的な作品は未定です。映画鑑賞団体全国連絡会議(全国映連)の行事に参加することで先進団体から作品や運営方法の情報を得て、会の活動に役立ててほしいと考えています。

また、3年前から行っている明石シネマクラブとの交流事業である、それぞれの例会に両会の会員が参加できる例会相互参加事業は、好評で、経費負担もほとんどないことから、引続き継続します。

毎回説明しているとおり、200名近くの会員数にならないと、安価な事業しか行えず、良質の例会作品の選定や、自主性を持った映画文化の発展に役立つ活動が困難になりがちです。会員の皆さんには引き続き、入会者を増やすことについてご協力お願いいたします。

私の映画KAN

「不屈の男・パッドマン」

インド製・荒唐無稽アクション映画大好きな“私”が、「不屈の男・パッドマン」を知ったのは、予告編とBSTVのドキュメンタリーです。主人公が1998年に結婚し、初めて女性の生理時の実態を知ることになります。インドでは、生理等が“不浄”扱いとされ、不衛生な布を使い、別室や屋外で過ごさなければなりません。市販されるナプキンが非常に高価なもので貧しい家庭では買えない状態です。そんな中主人公は妻のために清潔なナプキンを作ることを決心します。しかし、周囲の人々や家族までが大反対です。不理解のまま手作りで、製造とテストを重ね、6年後に清潔で安価なナプキンを作ることができました。

映画では、サブタイトルに「5億人の女性を救った男」とついています。妻を非常に愛し、妻のためにとの思いが、ナプキンの開発と機械の製造、そして販売システムを作っていきます。それが国中の女性の雇用促進と繋がっていきます。この「パッドマン」の主人公の努力が、明るさとユーモアあふれ、とても楽しい映画です。

(山本芳明)

■題名／パッドマン 5億人の女性を救った男(原題／Padman)

■監督／R・パールキ

■キャスト／アクシャイ・クマール、ソーナム・カプール、

ラーディカー・アープター、アミターブ・バッチャン

■2018年、インド、137分

前回例会の報告

3月13日の例会では、小林稔侍の映画初主演作でもある『星めぐりの町』を鑑賞しました。豆腐やを営む島田勇作(小林稔侍)とその娘(壇蜜)と、東日本大震災での津波により家族全員を失い心に傷を負った遠縁の少年とのヒューマンドラマでした。ディテール(細かいところは、気になるところもいくつかありましたが、人間味溢れるヒューマンドラマであることと主人公親娘の好演が好評でした。

参加会員 116人、明石シネマクラブからの参加者 3人で合計 119人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『ペコロスの母に会いに行く』

(2013年、日本、113分)

■解説／離婚して子連れで故郷の長崎に戻った主人公ゆういちと、85歳になりグループホームで暮らす認知症の母みつえの心温まる日常を描く。

「喜劇・女は度胸」「男はつらいよ フーテンの寅」などで知られる名匠・森崎東監督が、「ニワトリはハダシだ」(2003)以来10年ぶりに発表した監督作。62歳で漫画家デビューを果たした岡野雄一の介護日誌コミック「ペコロスの母に会いに行く」「ペコロスの玉手箱」を原作に、離婚して子連れで故郷の長崎に戻った主人公ゆういちと、85歳になりグループホームで暮らす認知症の母みつえの心温まる日常を描く。ゆういち役で岩松了が主演、母みつえ役に赤木春恵。そのほかのキャストに加瀬亮、竹中直人、大和田健介ら。原田知世と原田貴和子が約20年ぶりに姉妹共演も果たしている。

■監督／森崎東

■出演／岩松了、赤木春恵、原田貴和子 他

■日時／6月12日(水)

①PM2:00ー、②PM4:30ー、③PM7:00ー

■場所／アスパア明石9階子午線ホール

(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 148人(3月13日現在)

